



福井大学教育学部
附属義務教育学校

No.02

令和5年7月11日

学校だより

「探究を探究する学校」という思いを新たに
令和5年度 附属幼稚園・義務教育学校教育研究集会 開催

後期課程 副校長 吉田 千春

6月16日(金)に開催した今年度の教育研究集会には、県内外から約450名(シンポジウムのオンライン参加者を含む)の参加があり、本校の研究に対する関心の高さを実感しました。

今年度初めての試みとして、生徒会主催のオリエンテーションとポスターセッションがあります。子どもたちによるポスターセッションはこれまでも行っていましたが、今年度は生徒会執行部が5年生以上の子どもたちに参加を呼びかけました。当初は、代表者が教員に語っている間、他の子どもたちは自習の予定でした。しかし、教育研究集会に来られた教員に向けて語るだけでなく、自分たちの仲間にも語りたい、仲間の考えや意見も聞きたいと、執行部員が訴えてきたのです。さらに、ポスターセッションの前に本校の学びについて自分たちで概要を説明する機会を設定したいと提案してきました。教師の考えをはるかに超える提案に驚かされるとともに頼もしさを感じました。そう感じたのは、きっと私だけではないと思います。

当日のオリエンテーションでは、自分たちで作成した資料をスクリーンに映しながら、附属の授業形式は、「児童・生徒主体」「探究」「コミュニケーション」がキーワードであるとの紹介から始まり、前期課程・後期課程それぞれの授業の特徴について、教育研究集会に来られた先生方に紹介してくれました。子どもたちなりのとらえではありましたが、私たち教員が大切にしている授業デザインを理解している説明となっていて、6年間、9年間で彼らの中に沁みついていることを実感しました。

オリエンテーションを受けてのポスターセッションは、42グループ、児童・生徒121名が、生徒会の呼びかけに応え発表を行いました。これは前期課程(5、6年)児童の2割、後期課程生徒の約3割に当たります。体育館だけでは、会場が足りず、後期課程の教室も使った発表となりました。前期・後期それぞれから発表がある教科については、同じ会場で続けて発表が聞ける工夫がされており、教師だけでなく、彼らも教科の学びのつながりを意識してくれていることがわかりました。



生徒会執行部と児童・生徒代表によるオリエンテーションの様子

参観者からは、「子どもたちが日々の学習に主体的に取り組み、よりよい学び方について俯瞰的に見る力を深めていること、将来の学びへの期待、目指す生き方などについて触れることができ、附属の教育がこのような子どもたちを育てているのだと実感できた」との感想をいただきました。

シンポジウムでは、さらなる課題と本校へのエールをシンポジストの先生方からいただきました。

- 「A Iの学びと人の学びの違い。人の強みは心が動くこと」心が動かないと探究は深まらない。生徒同士の学び合いの中で、困っている子もいる。探究を通して、学ぶ喜びをすべての子どもが実感できる授業を追究することが教師の役割である。
- 個人のパフォーマンスのみを評価するのではなく、協働探究の中での子ども同士の関係性について評価できることが重要。誰かのおかげで誰かが変容できた。そこを評価することで子どもたちにも協働探究の良さが実感される。今日の授業でも見受けられた。「みんな、めっちゃいい感じになってきたじゃん!」の声。自分のことをやっているようでみんなの様子も見ている。そのような『成長の快』を伴って協働探究を経験した子は、協働探究の価値を忘れない。
- 福大附属は「探究を探究する学校」の中の最先端に行く学校だと思っている。答やゴールなどというものを考えず、これからも子どもたちと共に探究し続けてほしい。

現在の研究副題は『共に学ぶプロセスをデザインする』です。子ども同士だけでなく、子どもと教師、教師と教師が共に学ぶプロセスをデザインすることについて、研究を進めています。

子どもたちは、先輩が語る姿を見て学び、「先輩に追いつけ、追い越せ」の気概で生活し、確かに先輩を超える姿に成長しているように思います。

今年度、前期・後期の子どもたちが合同で活動することが多くなり、先輩の姿を前期課程のうちから間近に目にし、思いを感じることで、子どもたちの中に理想とする先輩像が形作られてきているように思います。また、逆に上級生も後輩とともに活動することで、後輩たちのがんばりを実感でき、後輩から学ぶこともあると感じています。

教師も負けてはいられません。子どもたちから多くを学び、幼稚園と義務教育学校をつなぐ12年間の学びを貫く教育課程の開発に向けて連携を深め、子どもたちとともに創造する学びの在り方について、考えていきたいと気持ちを新たにしました。



ポスターセッションの様子